

丹後市民局

ルックルック!

NEWS
R3.9月号

◆ 間人墓地公園 ◆

間人墓地公園からの景色です。雄大な日本海と間人の街並みが一望できます。山頂広場には松本重太郎顕彰碑がありますので、松本重太郎ギャラリーを訪れる際に合わせて訪問されてはいかがでしょうか。



↑丹後市民局ルックルックNEWSのバックナンバーはこちら

丹後町の人口

	R3.8月末	前月比
0-14歳	427	△5
15-64歳	2,275	△2
65歳-	2,139	△3
計	4,841	△10

トレーニングが趣味の地域づくり支援員吉岡秀真が「丹後町な体操」を紹介するコーナー!

たんご健康体操

10月は新米のシーズンで、丹後ではおいしい新米がたくさん収穫されています。そこで、今回の体操は稲刈りをモチーフにした体操です!

10月27日(水)は、市町村単位で運動した住民の割合を競う「チャレンジデー」が開催されます。是非「たんご健康体操」を行って京丹後市を勝利に導きましょう!

※過去の「たんご健康体操」は、表紙QRコードを読み取っていただくとご覧いただけます。

第16回「稲刈りの型」

- ① 水入りのペットボトルを持ち、腕を真下に下ろします。足を肩幅程度に開き、膝がつま先より前に出ないように腰を落とします。顔は正面を向き、猫背にならないように注意してください。これがスタートポジションです。
- ② 曲げた膝をゆっくり伸ばし、伸び切る手前で腰をゆっくり起こします。胸を張り、背骨が少し反るイメージで行うことで、ケガの防止になります。
- ③ ゆっくりと①の姿勢に戻して1回です。

「目標は10回3セット」ですが、最初の内は少ない回数を行ったり、浅い姿勢で行うなど、身体のレベルに合わせて行ってください。②の状態 で前後にゆっくり揺らすだけでも効果があります。

(地域づくり支援員 吉岡秀真)

①の動作



②の動作



掲載団体や話題を大募集!

スポーツ、文化芸術、サークル活動など、皆さんに広く知ってほしいニュースがある団体や個人を募集します。掲載を希望される方は、丹後市民局までご連絡をお願いします。

【連絡先】京丹後市市長公室丹後市民局(TEL0772-69-0714)

※誌面の都合上、全ての希望に沿うことはできません。ご了承ください。

丹後町な人



- * 黒本 知輝さん* (35)
- * 山副 公輔さん* (31)
- * 宮城 朋幸さん* (31)

今回の丹後町な人は、黒本知輝(くろもとともき)さん、山副公輔(やまぞえこうすけ)さん、宮城朋幸(みやぎともゆき)さんです。3人は、東京で刀鍛冶の修行を積み、この度丹後町三宅で独立されました。どのようなきっかけだったのか聞きました。何故 丹後町を拠点の場所として選ばれたんですか?」

関東でも場所を探してはいたんですが、なかなか見つからず、どうしようかと言っていた時、山副から祖父父母が住んでいた家が京丹後市丹後町にあると聞き、見に来たのが始まりです。」と黒本さん。小さい頃、長期の休みにになるとここに預けられ、祖父父母と生活してきました。「数年なかなか来る」とが出来なかつたんですが、久々に訪れてみるとこんな良いところだったのかと思いました。「と山副さん。地元の方が歓迎してくれたり、刀が丹後の歴史に大きく関係しているのも知り、強い繋がりを感しました。」と宮城さん。

何故刀鍛冶になろうと思ったんですか? 刀の魅力は何ですか?と尋ねると、小さい時にテレビで見て興味を持ち、そこからめり込み、体の感覚的な所で刀を作ってみたと思うようになりました。魅力を持った時の気持ちの変化をこんなに味わえる物質はないと感じます。また、金属の美しさや刀自体の立ち居振舞いの素晴らしさが魅力に繋がると思います。」と3人が口を揃えて言われます。

詳しく聞くと、3人は中学生の時に刀鍛冶の修行に行きたいと考えたそうですが、両親や先生から「高校は行け」と言われ高校に行く事に。高校を卒業し山副さんは刀鍛冶の修行に行き、黒本さんと宮城さんは違う道に進んでいましたが、本当にやりたい事は何だろうと考えた時、小さい頃に言葉ではなく体で感じた刀への想いが蘇り、刀鍛冶になることを決断されました。

そこで3人は同じ時期に5年以上上修行されたのをきっかけに独立に至ったそうです。「何をきつかけのような場所にしていいですか?」と尋ねると、刀文化の発信元になり、刀と言えば京丹後市の丹後町だと言われるようにしたいです。」と黒本さん。



3人の活動内容を詳しく知りたい方はQRコードを読み込みYouTubeチャンネル「日本玄承社」へ



修行に行き知れば知るほど刀鍛冶の歴史を残していくべきものだと感じました。」と山副さん。これが刀と玉鋼(たまはがね)です。」と宮城さんが見せてくれました。この塊から刀になるのかと信じられない気持ちでした。持たせてもらいましたが、やはりずつしりと重く丹精込めて作られていることが伝わってきます。

普段なかなか出会えない刀鍛冶の皆さんの話を聞き、人間の技術の素晴らしさと皆さんの刀への想いを伝えていく場所として丹後町が選ばれ、丹後町から情報発信されていくと思うとワクワクします!

今後準備が整い次第、見学会の開催などを予定しているとのこと、その時またお邪魔いたします。

お忙しいところありがとうございます。楽しみにしています。

(地域おこし協力隊 大木 史帆)

Tango 地域 news



松本重太郎ギャラリーがオープン

京丹後市丹後町間人出身で、明治という日本の産業革命の時代を切り拓いた松本重太郎翁の偉大な功績を讃え、松本重太郎翁の誕生日である10月5日に松本重太郎ギャラリーを丹後地域公民館に開設しました。

- 松本重太郎ギャラリー
- 場所 丹後地域公民館1階
- 会館日時 月々金曜日
- 午前9時〜午後5時
- 休館日 土曜日、日曜日、祝日
- 年末年始
- 入館料 無料
- 展示内容 明治という日本の産業革命の時代を切り拓いた松本重太郎翁の一生を展示します。



松本重太郎翁

天保15年(1844年)10月5日、丹後国竹野郡間人(現京都府京丹後市丹後町間人の農家松岡亀右衛門、美代の5男5女の第3子(次男)として生まれる。

10歳で単身京都の呉服商(丁稚奉公し、27歳にして独立し大阪で洋反物雑貨商・丹重を創業。その後、第三十国立銀行をはじめ、東洋紡、アサヒビール、毎日新聞社、南海電鉄など今に続く大企業の前身となる41社の創業・設立に身を投じ、明治期の関西実業界に君臨して、東の渋沢(栄)、西の松本」と称された。

その偉大な功績は、城山三郎作の伝記「気張る男」でも紹介されている。

※城山三郎作「気張る男」は、丹後図書館他、市内の図書館で貸し出しています。

丹後町な場所



丹後町の山々が目の前に広がります。

鍛冶場の裏山からの眺め

今回の丹後町な場所は丹後町な人でも紹介した刀鍛冶の3人の「鍛冶場の裏山からの眺め」です。鍛冶場から少し裏山を登れば丹後町の山々が目の前に大きく広がります。見る場所が変われば、新たな景色に出会えたような感覚になります。鍛冶場がオープンした際には見学と一緒に裏山の景色もご覧ください。